

30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50

新編

香水

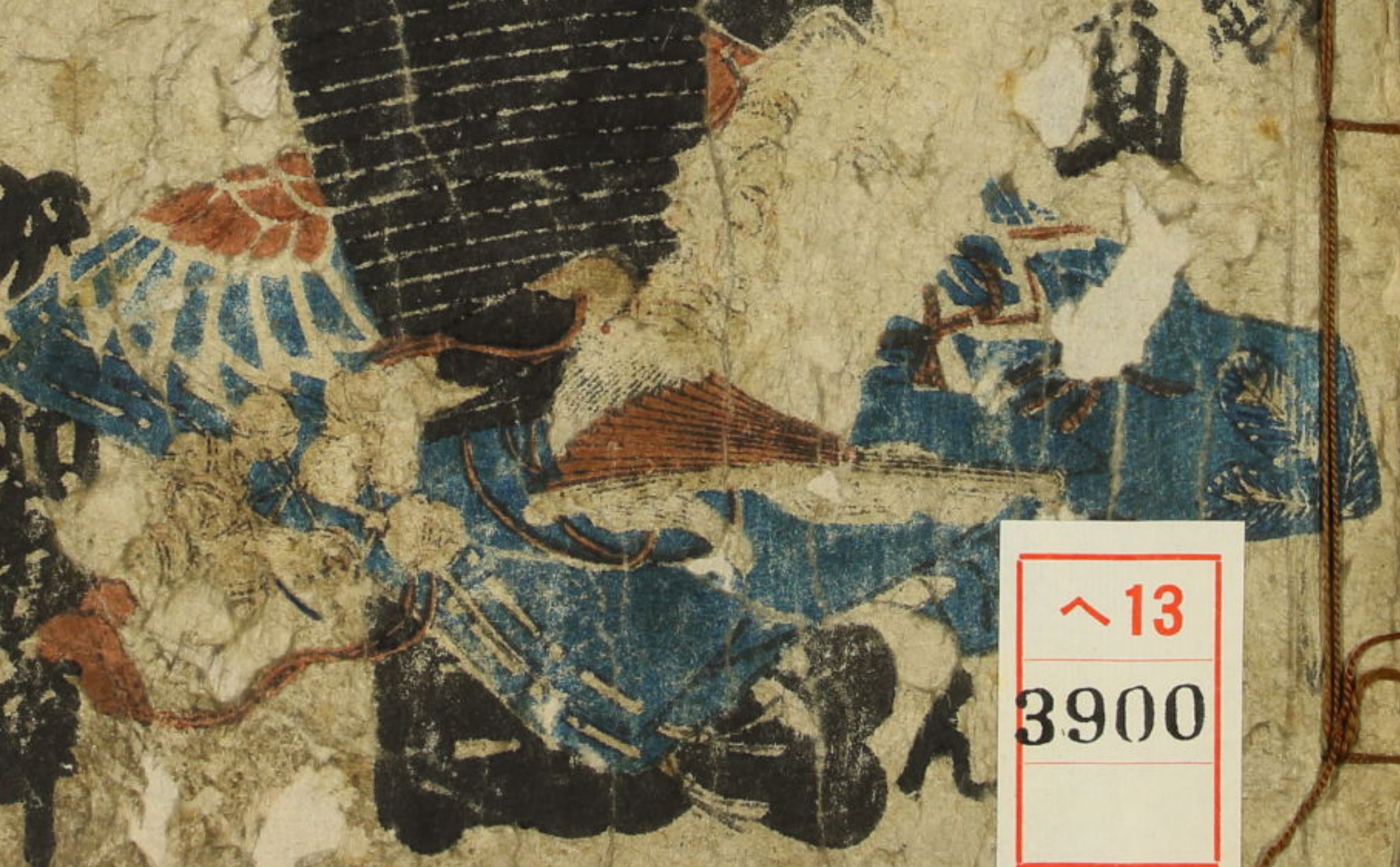
國風

五ノノノノ

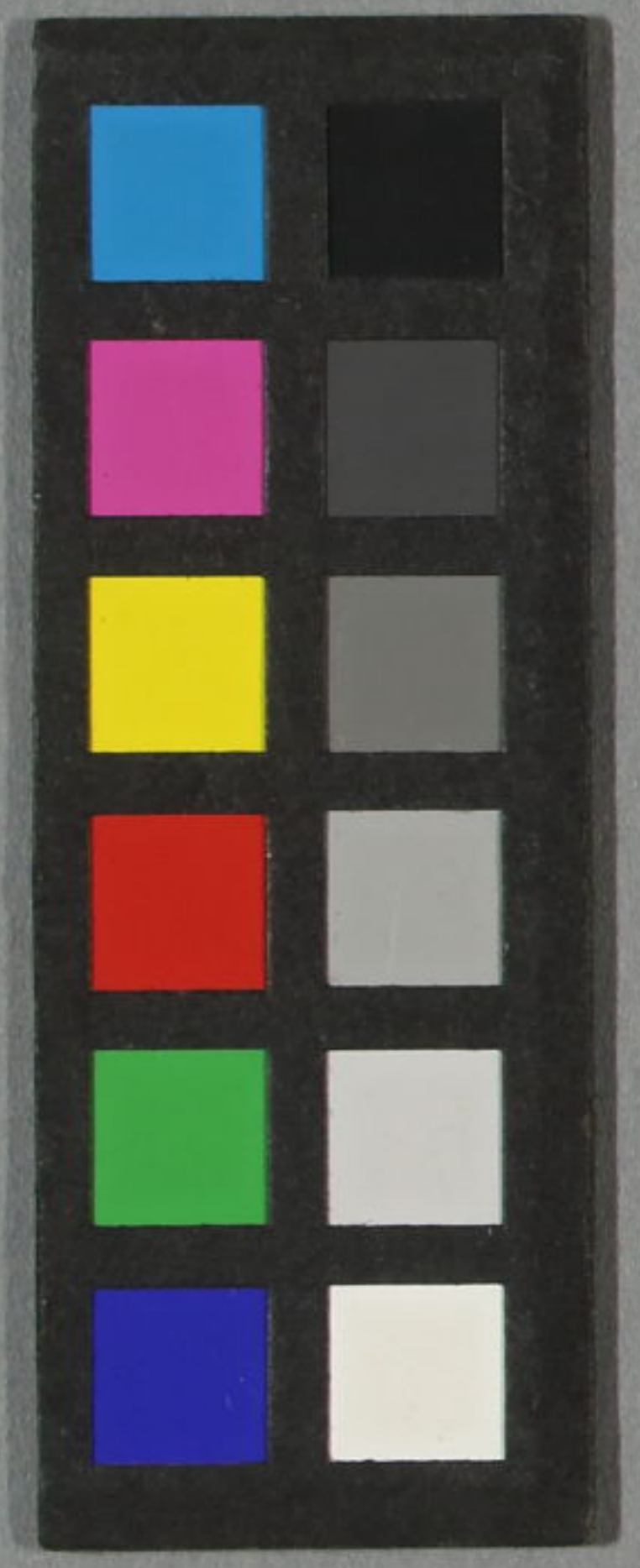
大正

萬葉集

伊勢



^13  
3900





外題曲立回巻

初編上

門 八 13  
號 3900  
卷

いふる塔水化

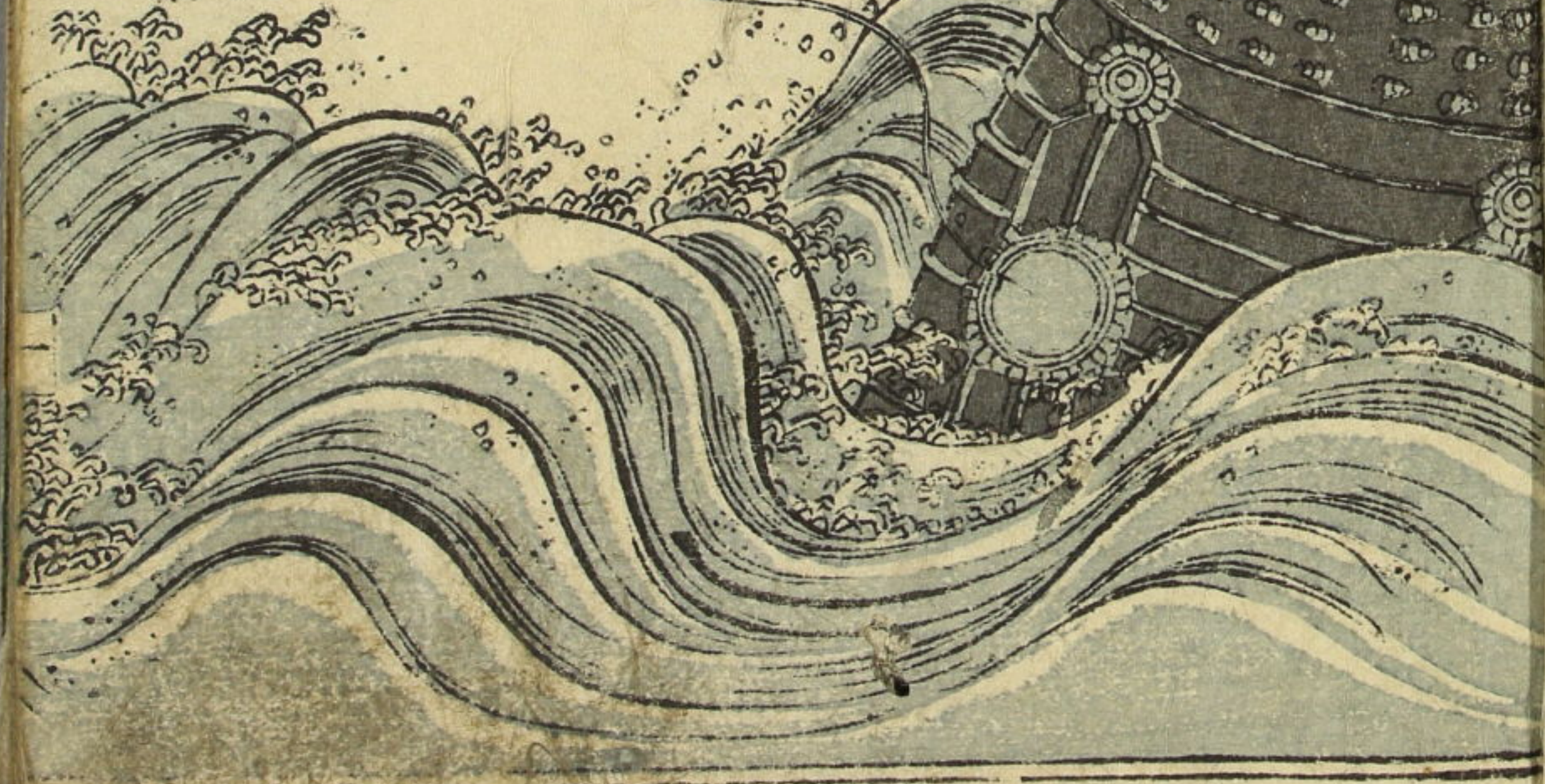
# 新增補西園奇談

初篇 上册

新川國守堂

佐楚喜板

そのころりたる昔稔五柳亭徳外子グ作の内小西園  
 奇談月の夜神樂と表題する前後合巻  
 六冊わして其首尾全うの尚續篇を  
 素ねる看官のりり多ん小も彫板磨滅せ  
 火這回再刻かさんとまら小その述作の當世  
 是小増補あはしり且嗣編をも綴りよと  
 書費の需小辞さくかそと言ふの作家の物体需  
 得風小帆と西園船小来くツイおと  
 請合仕事硯の海小波の  
 筆頭小碇をおろさの後より  
 後を編えて續て高覽小  
 入る巻一といふ



安政三稔丙辰初春

發市

五五

爲永

春水誌





赤松  
妖齋

朝日丸の  
船頭  
船右門



悪漢  
柴六

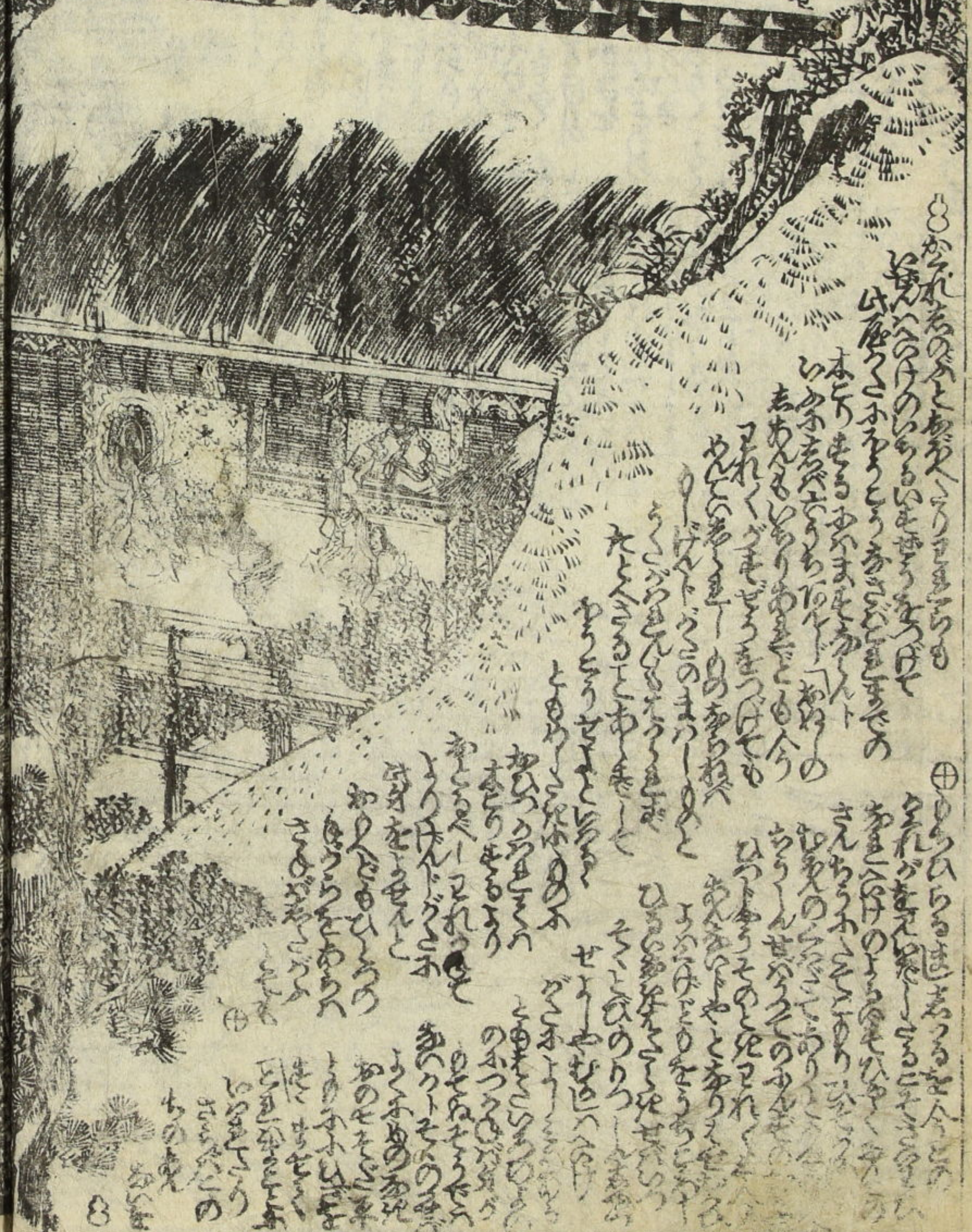
干潟  
磯魚

内田吉三郎





ついでに  
うらやま  
あり  
そのうち  
ま



あま  
ゆめ  
のちま  
わりま  
ゆめ  
ありか  
天  
入  
あり

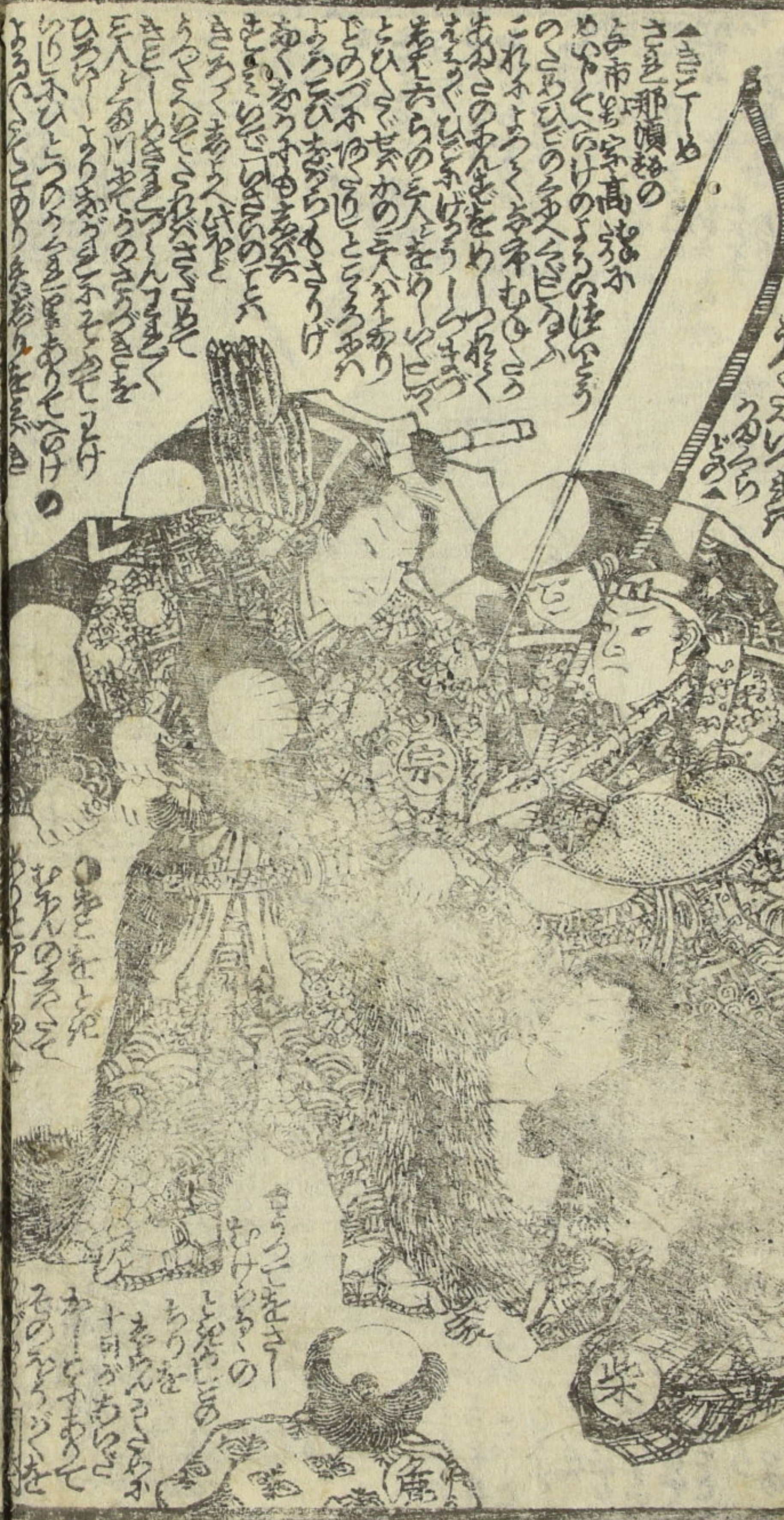


あま  
ゆめ  
のちま  
わりま  
ゆめ  
ありか  
天  
入  
あり

あま  
ゆめ  
のちま  
わりま  
ゆめ  
ありか  
天  
入  
あり



西国奇談の物語は、  
昔の事から今までの事まで、  
いろいろとあるが、  
その中でも、  
最も面白いのは、  
西国奇談の物語である。



西国奇談の物語は、  
昔の事から今までの事まで、  
いろいろとあるが、  
その中でも、  
最も面白いのは、  
西国奇談の物語である。



西国奇談の物語は、  
昔の事から今までの事まで、  
いろいろとあるが、  
その中でも、  
最も面白いのは、  
西国奇談の物語である。

西国奇談の物語は、  
昔の事から今までの事まで、  
いろいろとあるが、  
その中でも、  
最も面白いのは、  
西国奇談の物語である。

宗茂  
 宗茂は  
 宗茂は  
 宗茂は



宗茂  
 宗茂は  
 宗茂は  
 宗茂は

宗茂は  
 宗茂は  
 宗茂は  
 宗茂は

宗茂は  
 宗茂は  
 宗茂は  
 宗茂は



五の目には...  
 つらまはる...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...

柴  
 ...

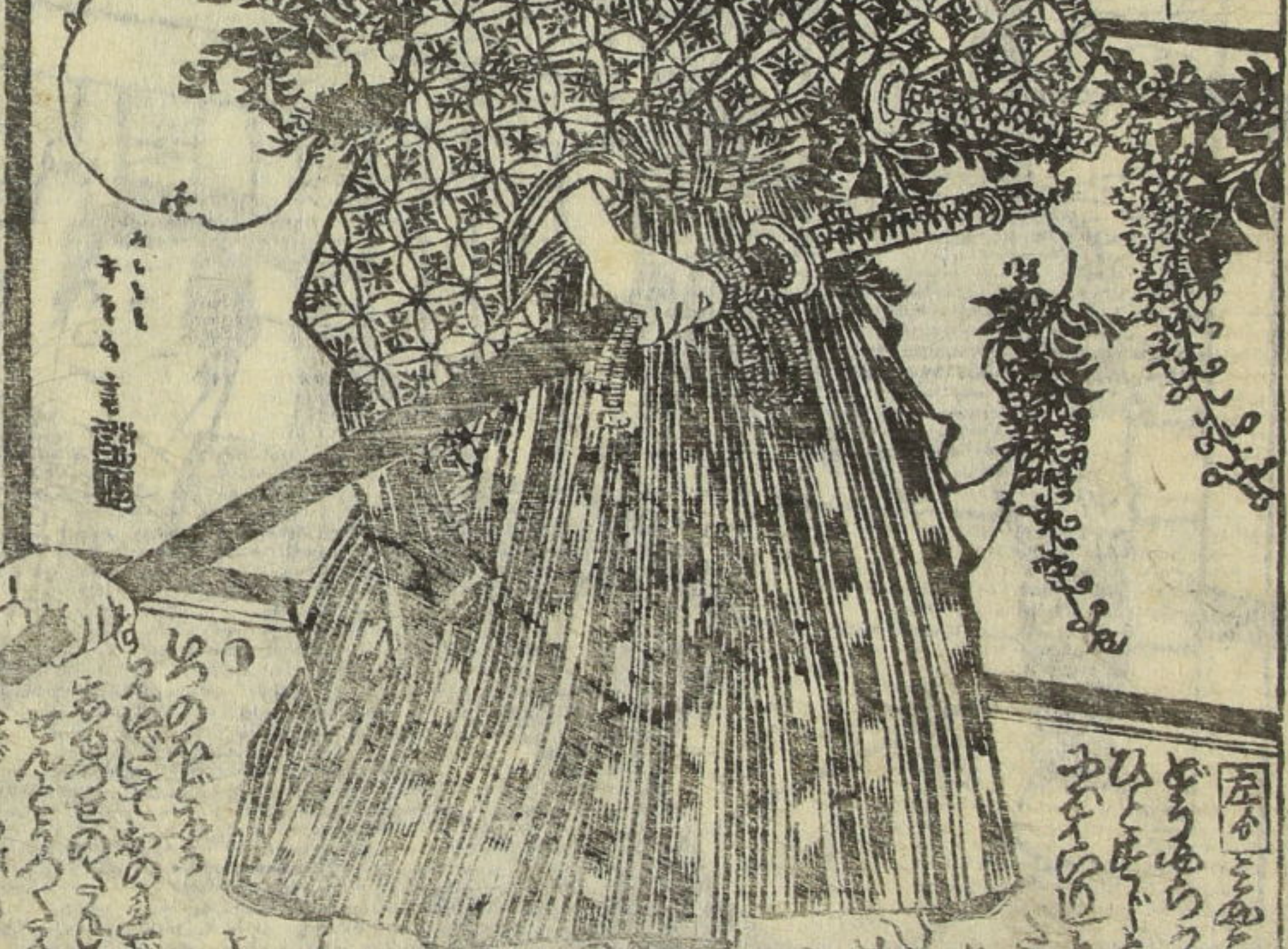


山崎闇斎

西国音韻

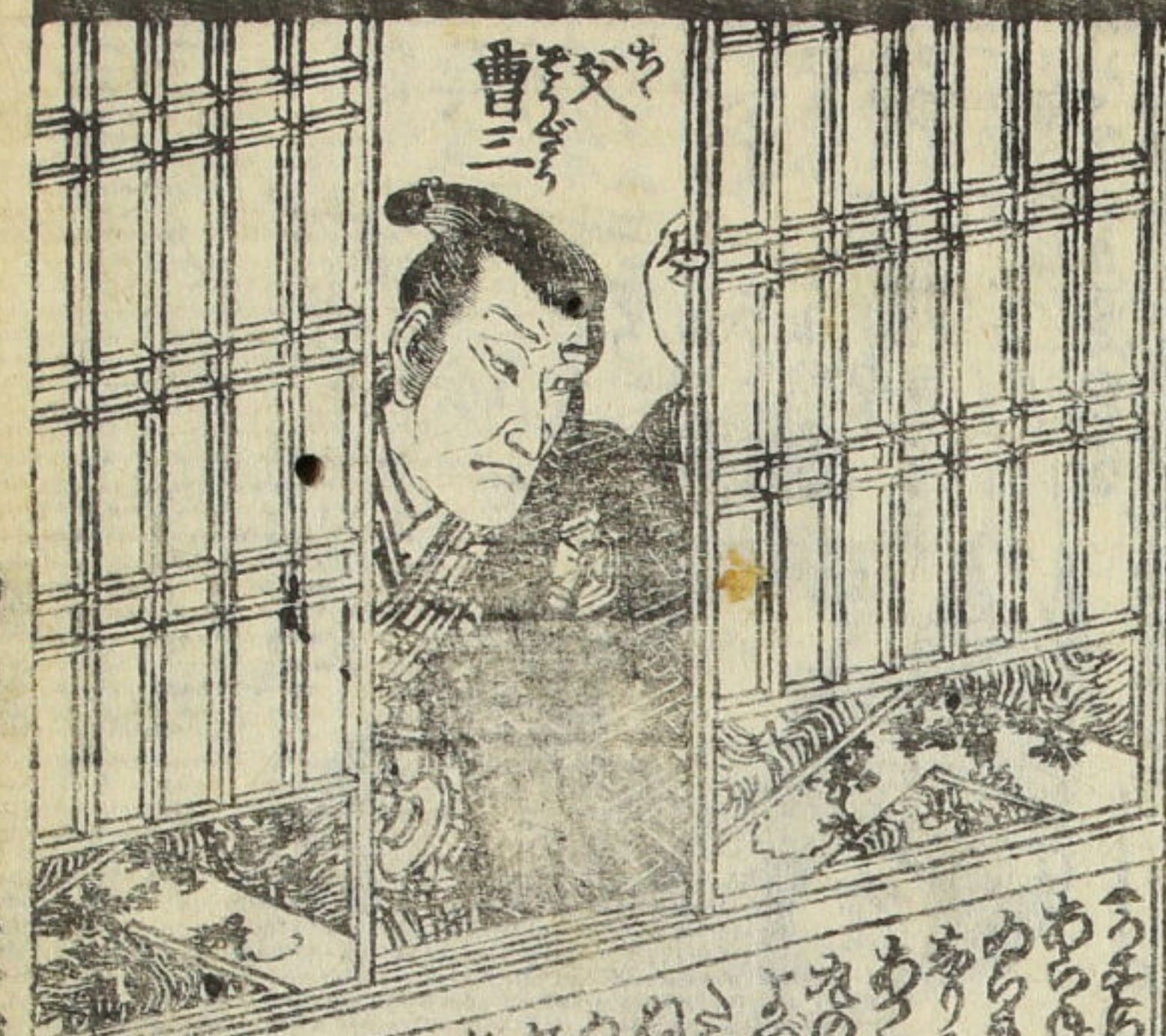
Small vertical column of text at the top right of the page, containing various characters and small annotations.

Text block located in the upper center of the page, above the seated woman.



Large block of text at the bottom right of the page, continuing the linguistic or poetic content.

Text block at the top center of the page, above the seated woman's head.



Text block located between the man at the window and the garden scene.

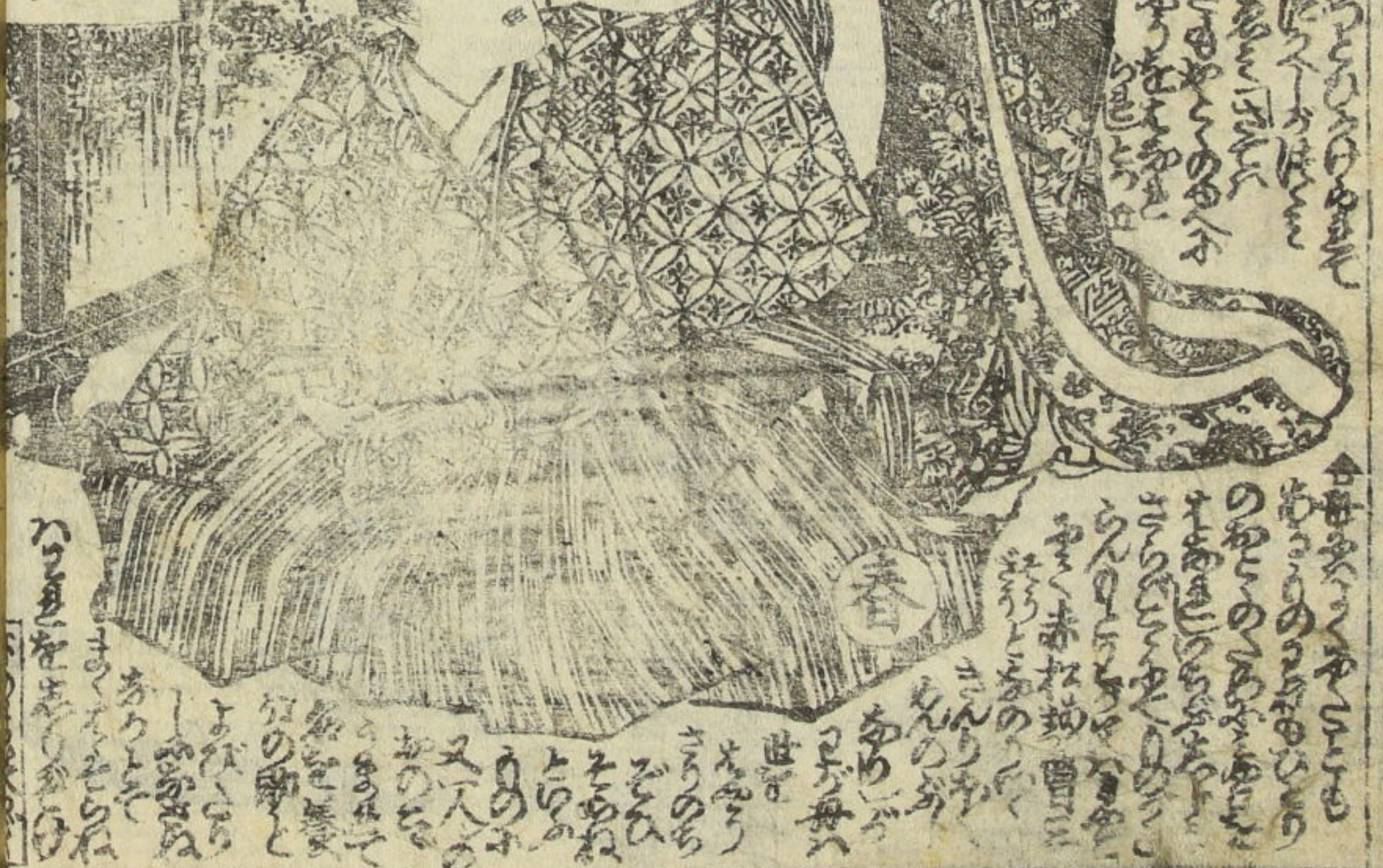


曹三 (Sōsan) written in a box above the man at the window.

音生 (Nane) written in a box above the seated woman.

つひに年々人々の心を惹きつけし物語なり  
つひに年々人々の心を惹きつけし物語なり  
つひに年々人々の心を惹きつけし物語なり

# 國貞画春水補綴



ひさしに阿波の國に五郎と女通と暗夫と再會の一段阿竜殺生石成  
折りと身は妖術を獲るの奇談お竜太郎の事は兄と色に  
縛る言寄て反て耻あるはより渠を罪せんと討つるの一端十四編の  
偽龍太郎の故より真の龍太郎の二の段と不義せし言寄れ  
終に配流せらるるの起き並に節之助の忠義義膽十五編の鳴守荒  
大夫の龍太郎を苦むんとするより宮屋浪子の二個の蟹が竊る龍太郎  
條の事と白地あめ美子記さき并へ此板の時あを知らまへ

## 西國

## 奇談

## 春水補綴

## 國貞画

十五編統紫ある穴人の買(宝笛香炉偷)宜孝の托す野洲見詛然さして紫  
式部寛と受十六編式神壽祖袂手子等が隠謀を露す柳彦自裁式  
汚名入玉雪まを黒白判然克悪皆戮せらるるついで少將が貞節惟規北国  
ちく死して又蘇る十七編大貳三位せき宣孝病死花山法皇の御傳大  
此編を全備す式部源氏物語を作す上東門院小奉公十八編下巻て記す

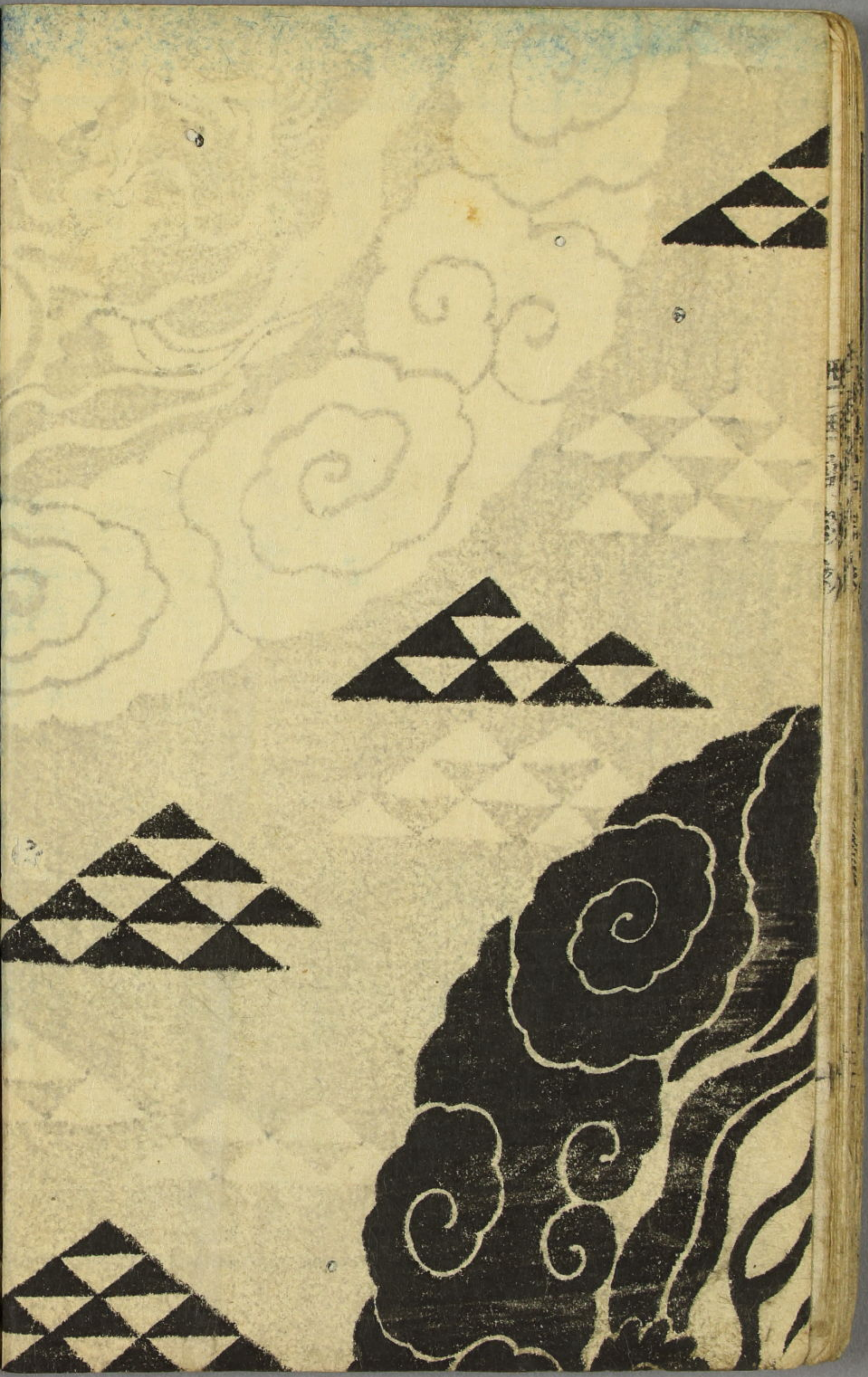
根源實紫新刻概畧 作者柳亭種彦画工同前

新增補西國奇談

為永春水補綴  
一壽齋國貞画

初編下

芝神明前  
喜鶴堂



三

西國奇談の巻の目録  
 一、西國の風土人情  
 二、西國の奇事  
 三、西國の物語  
 四、西國の雑談  
 五、西國の歌謡  
 六、西國の遊藝  
 七、西國の風俗  
 八、西國の歴史  
 九、西國の地理  
 十、西國の物産  
 十一、西國の宗教  
 十二、西國の政治  
 十三、西國の法律  
 十四、西國の教育  
 十五、西國の科学  
 十六、西國の藝術  
 十七、西國の文学  
 十八、西國の音楽  
 十九、西國の演劇  
 二十、西國の建築  
 二十一、西國の園芸  
 二十二、西國の畜産  
 二十三、西國の漁業  
 二十四、西國の工業  
 二十五、西國の商業  
 二十六、西國の交通  
 二十七、西國の軍事  
 二十八、西國の外交  
 二十九、西國の内政  
 三十、西國の文化

西國奇談の巻







Handwritten Japanese text in vertical columns at the top of the page, likely serving as a title or introductory text for the scene.

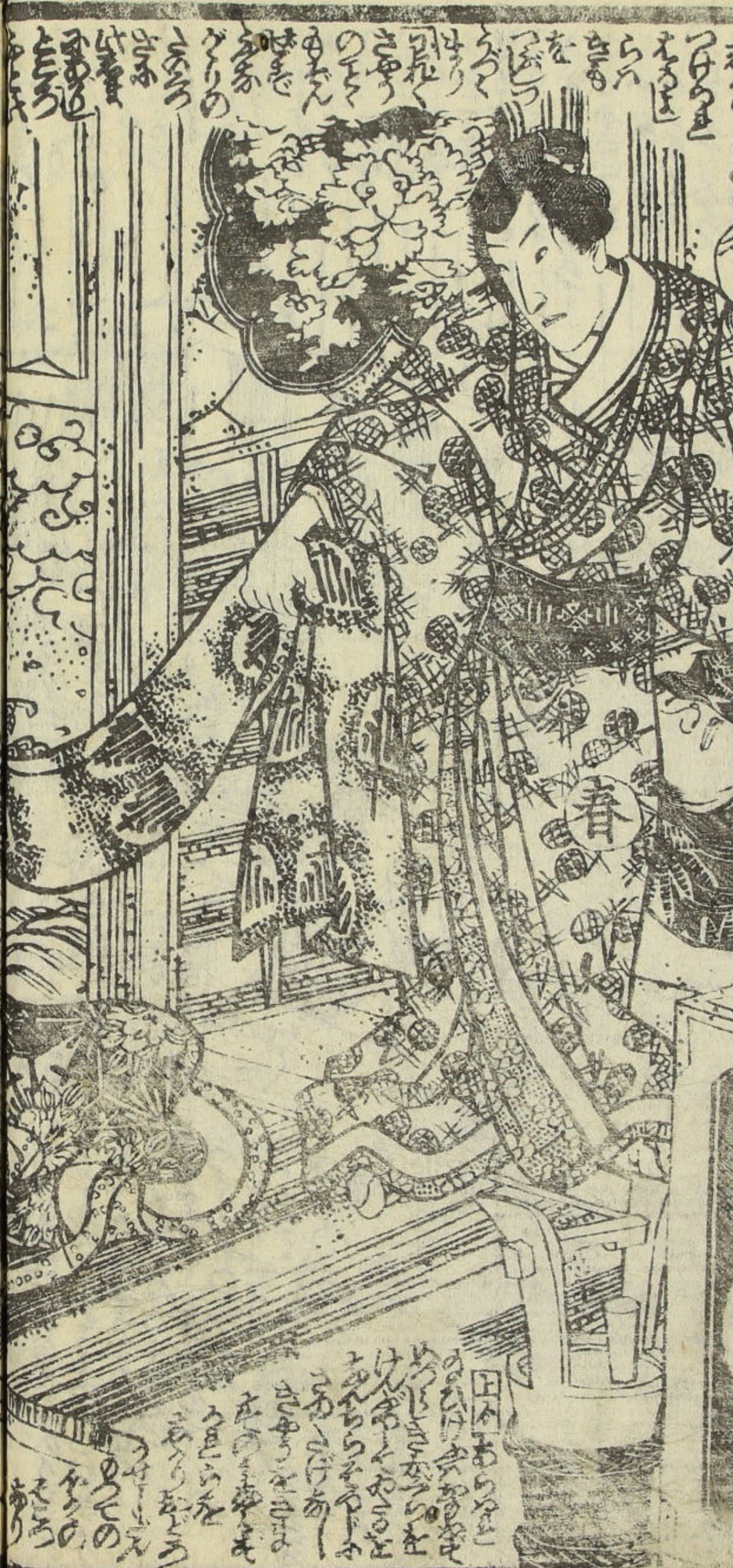
Handwritten Japanese text in vertical columns surrounding the central illustration, providing a narrative or commentary on the depicted scene.

Handwritten Japanese text in vertical columns at the bottom of the page, continuing the narrative or providing additional context.

Vertical text on the left margin of the page.

Vertical text on the left margin of the page.

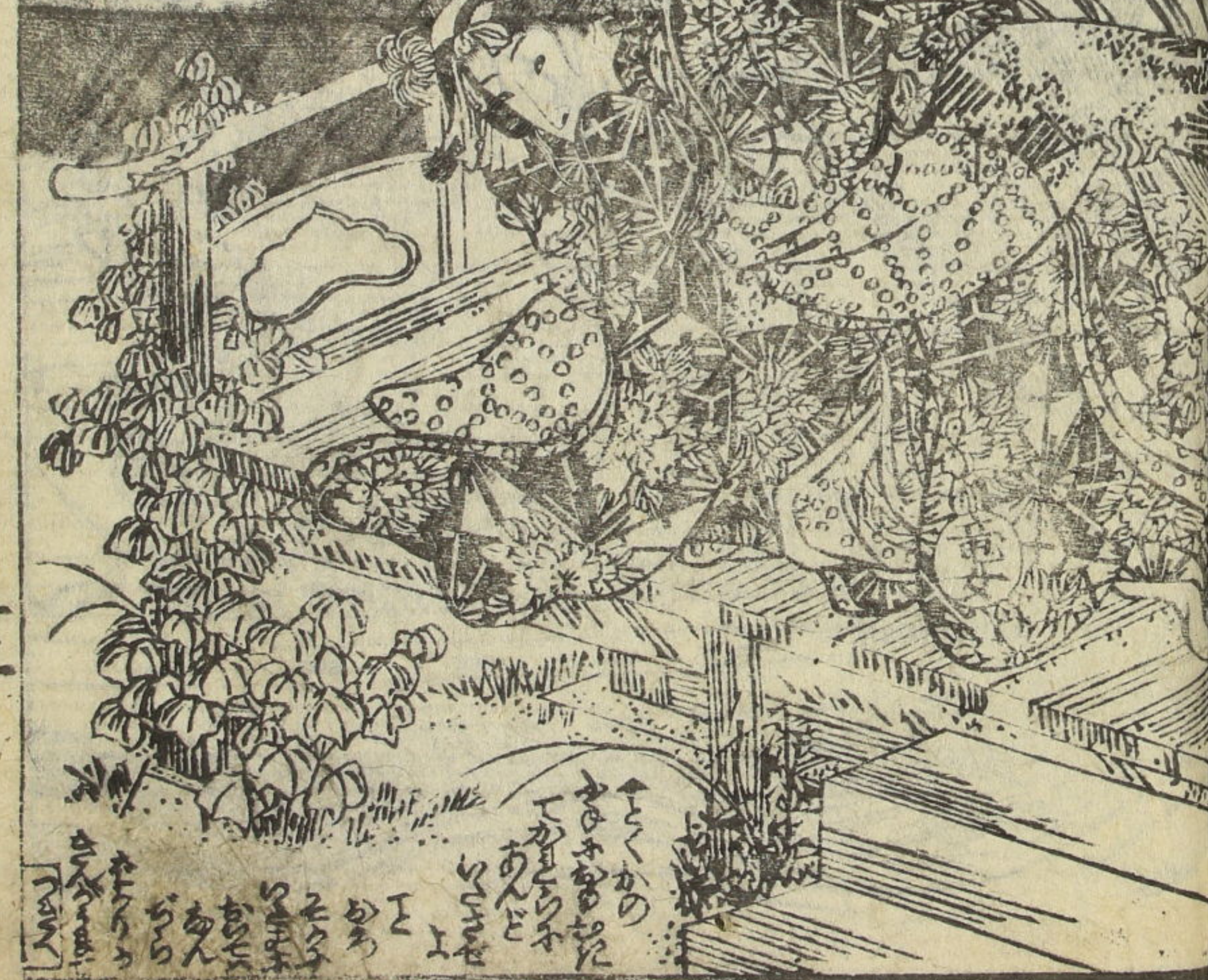
三つあつたまのあまを  
くちめしそまらるる  
ゆりあつたまのあまを  
とくちめしそまらるる  
たのあまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる



一茶  
二茶  
三茶

五つあつたまのあまを  
くちめしそまらるる  
ゆりあつたまのあまを  
とくちめしそまらるる  
たのあまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる

あつたまのあまを  
くちめしそまらるる  
ゆりあつたまのあまを  
とくちめしそまらるる  
たのあまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる



あつたまのあまを  
くちめしそまらるる  
ゆりあつたまのあまを  
とくちめしそまらるる  
たのあまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる  
あつたまを  
くちめしそまらるる



月夜に舟に乗りて  
 水邊を眺むるは  
 秋の風情を思ふ  
 舟の音も水音も  
 静かなる夜に  
 舟の音も水音も  
 静かなる夜に  
 舟の音も水音も  
 静かなる夜に

舟の音も水音も  
 静かなる夜に  
 舟の音も水音も  
 静かなる夜に  
 舟の音も水音も  
 静かなる夜に





西国奇談

此の如き事は  
 昔に於ては  
 しばしばあり  
 しが今は  
 稀なり  
 夫れを  
 見れば  
 人の心  
 動かす  
 事なり  
 夫れを  
 見れば  
 人の心  
 動かす  
 事なり

此の如き事  
 は昔に於て  
 はしばしば  
 ありしが  
 今は稀なり  
 夫れを見  
 れば人の心  
 を動かす事  
 なり夫れを  
 見れば人の  
 心を動かす  
 事なり

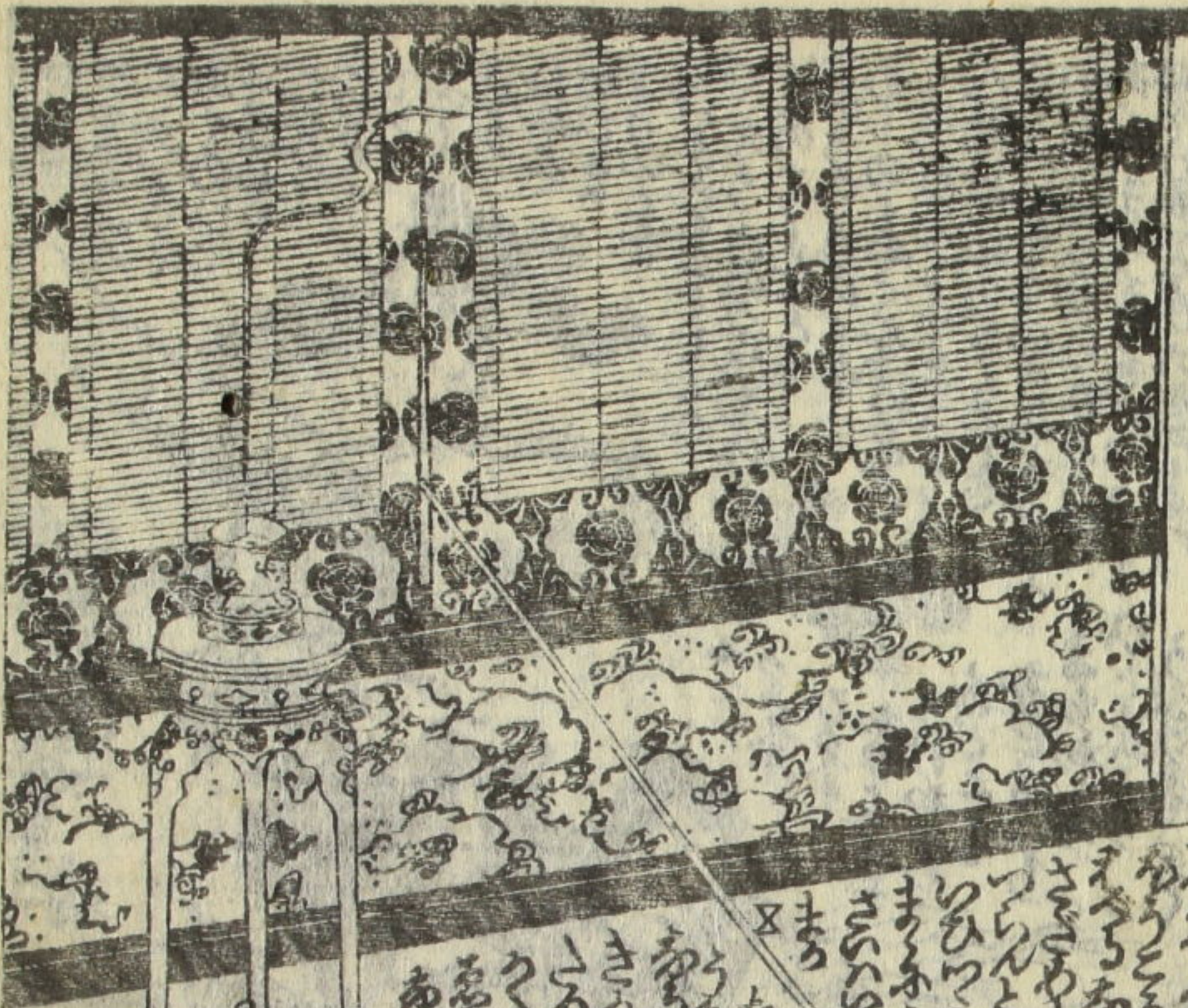
此の如き事  
 は昔に於て  
 はしばしば  
 ありしが  
 今は稀なり  
 夫れを見  
 れば人の心  
 を動かす事  
 なり夫れを  
 見れば人の  
 心を動かす  
 事なり

此の如き事  
 は昔に於て  
 はしばしば  
 ありしが  
 今は稀なり  
 夫れを見  
 れば人の心  
 を動かす事  
 なり夫れを  
 見れば人の  
 心を動かす  
 事なり

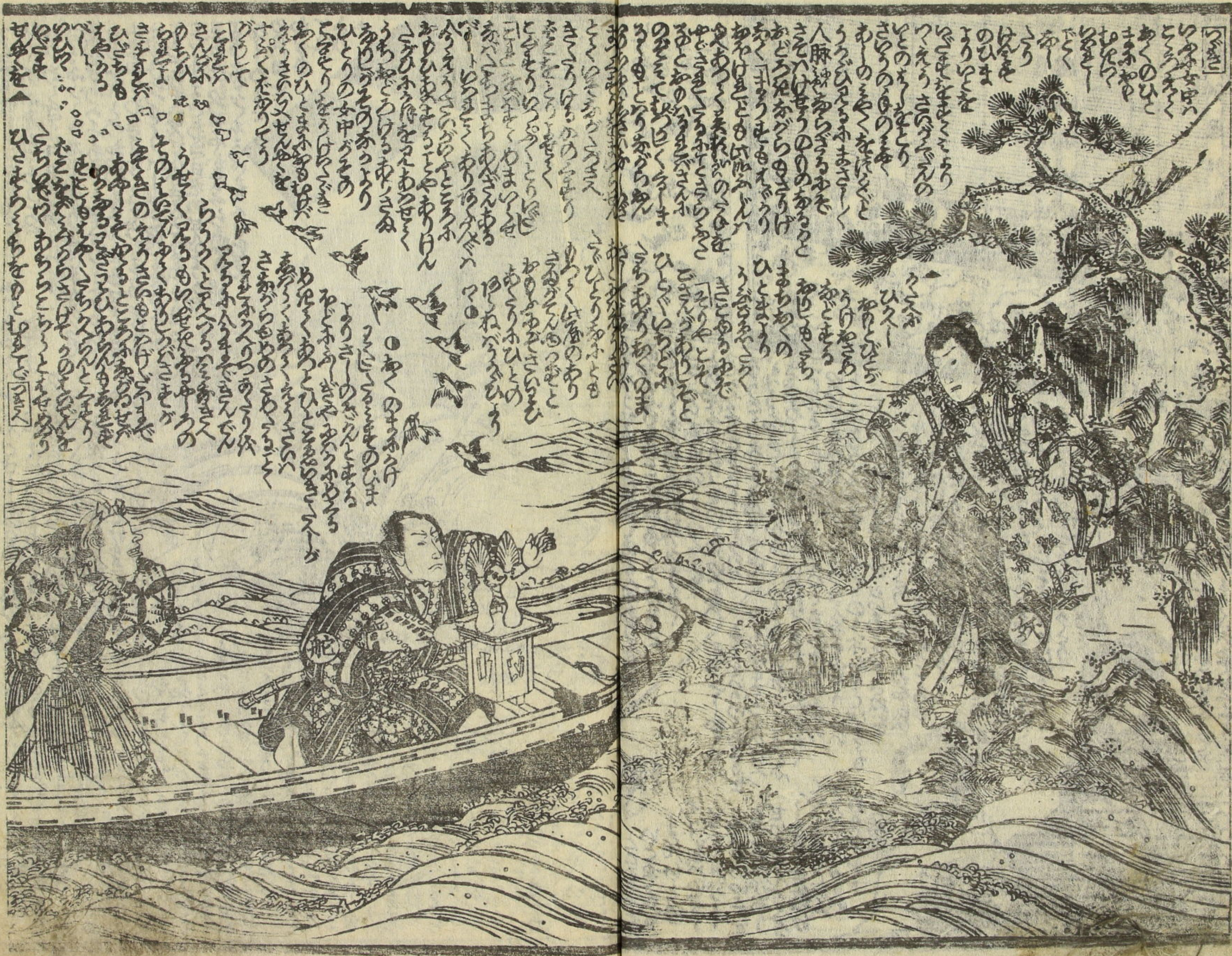
Handwritten text in the upper right section of the right page, written in vertical columns.



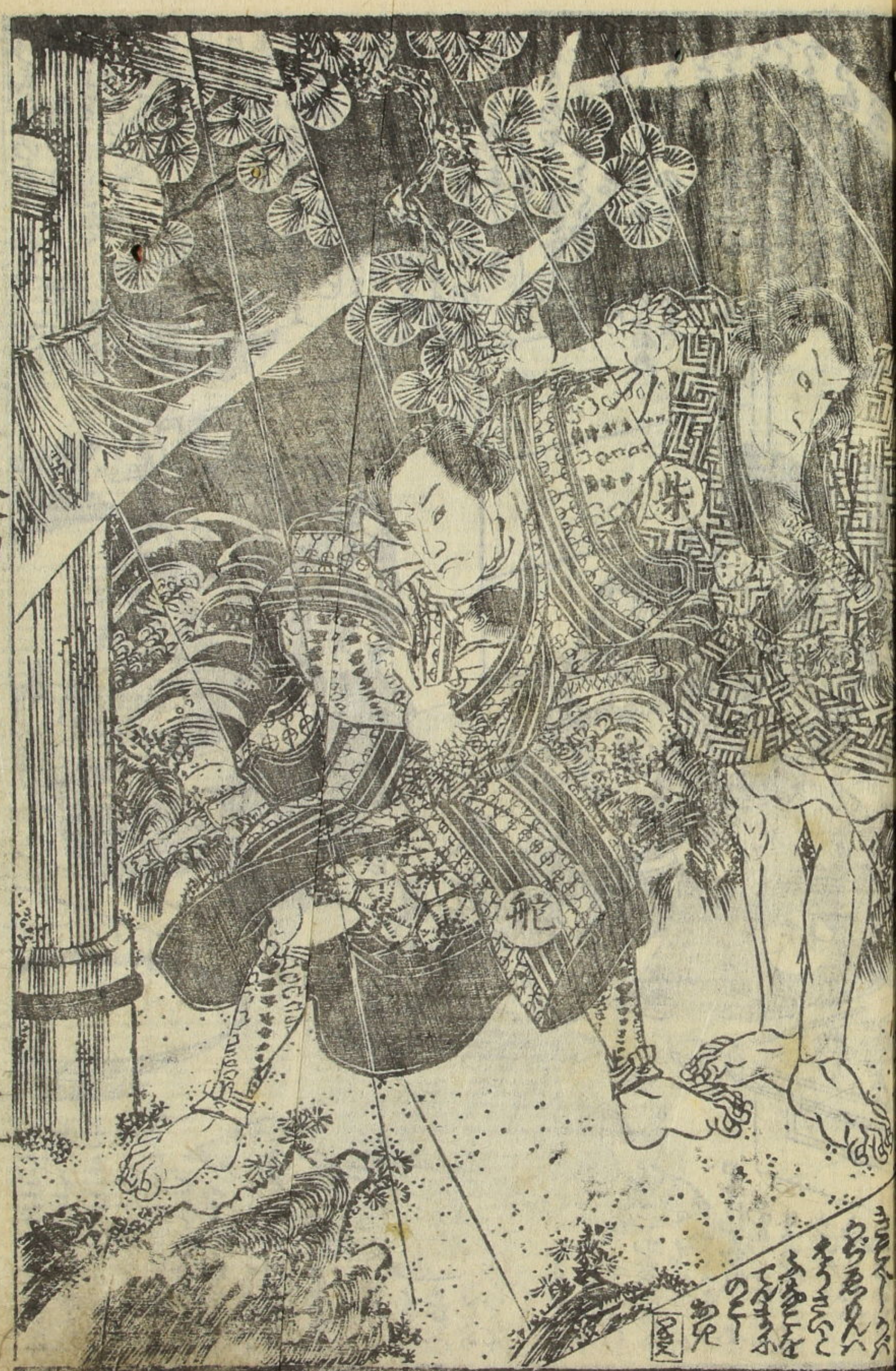
Handwritten text in the lower right section of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower left section of the left page, written in vertical columns.



Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or a poem, arranged in vertical columns across the right page.



Small handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a date.







爲永春水補綴

一壽齋國貞畫

文久二年戊辰新年鑄日録

根源實紫  
十五編 柳亭種彦作  
十六編 一壽齋國貞画  
十七編

娘庭訓金鷄  
五編 同  
大尾同  
画作

琴聲美人録  
十七編 柳亭種彦作  
十八編 川國貞画  
十九編 川國貞画

花兄弟陸奥名所  
初編 柳亭種彦作  
二編 川國貞画

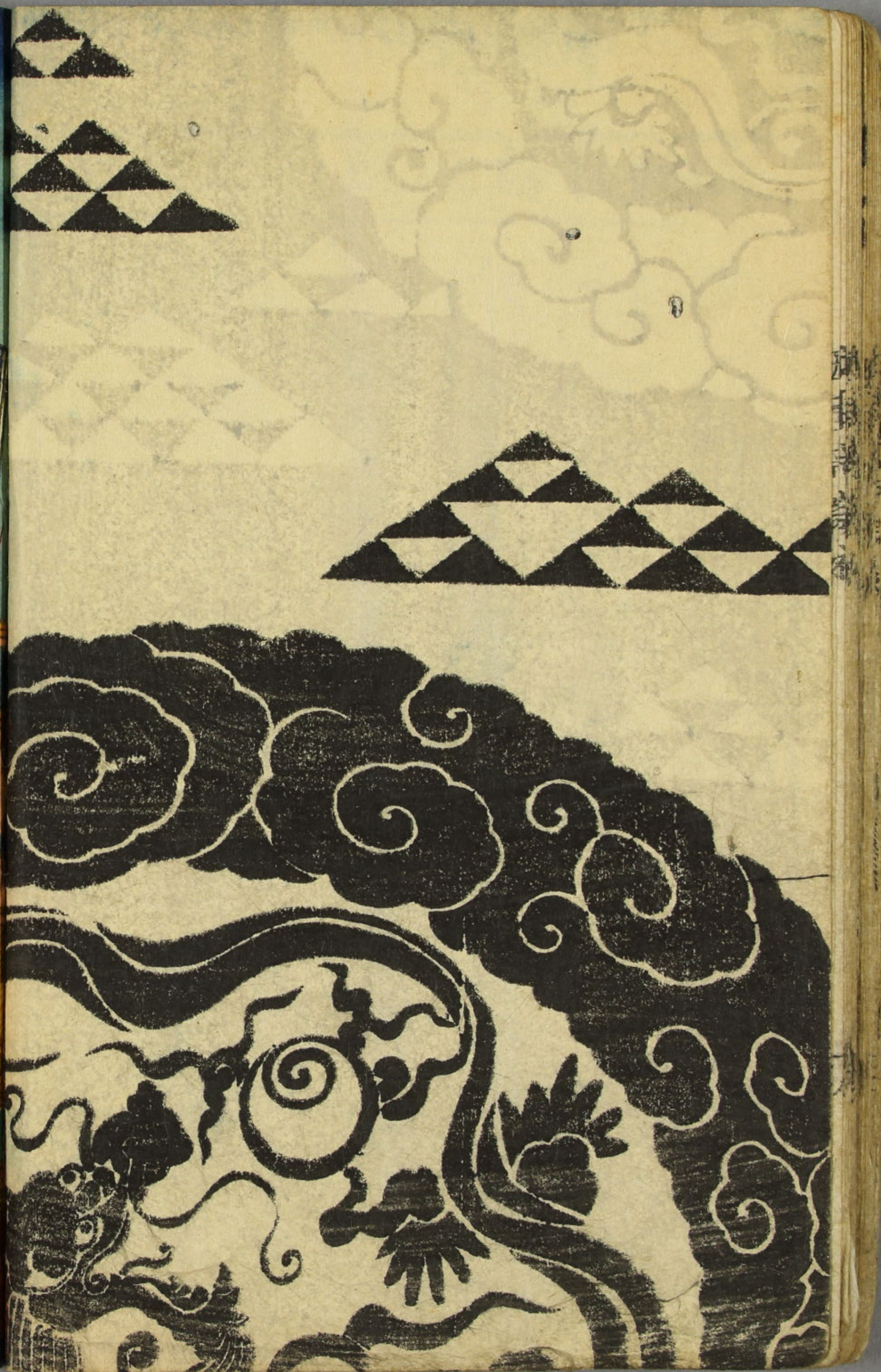
新增補西國奇談  
十三編 爲永春水作  
十四編 川國貞画  
十五編

地本繪草紙團扇問屋  
三 芝神明前 三 爲町 井 佐野屋喜兵衛板

新増補  
西國奇談



二編上





宇和吉

板倉の街  
米商客  
仇惚屋

西國奇談編序

辰の春

爲永春水誌

毎歳の節分此厄拂ハ爬觸ヒ西の海と言ふ其西國の奇談をバ追難の言と拾ヒ輯テ例の戲墨小のセ一を奇と爲ス所ハ更ナク蛇ハ足を添ゆガ如ク作者ガ浅智の杜撰モ鬼外全棄ラズアラ目出度の大尾マデメ多くお需り遊ギハ書肆ガ廊の福内その年の夜を混雜一机小毛類を搔攪ヒ西の海編ク這策子の爰の寸楮ヘサリと序を

罪七

新増補

西國

奇談

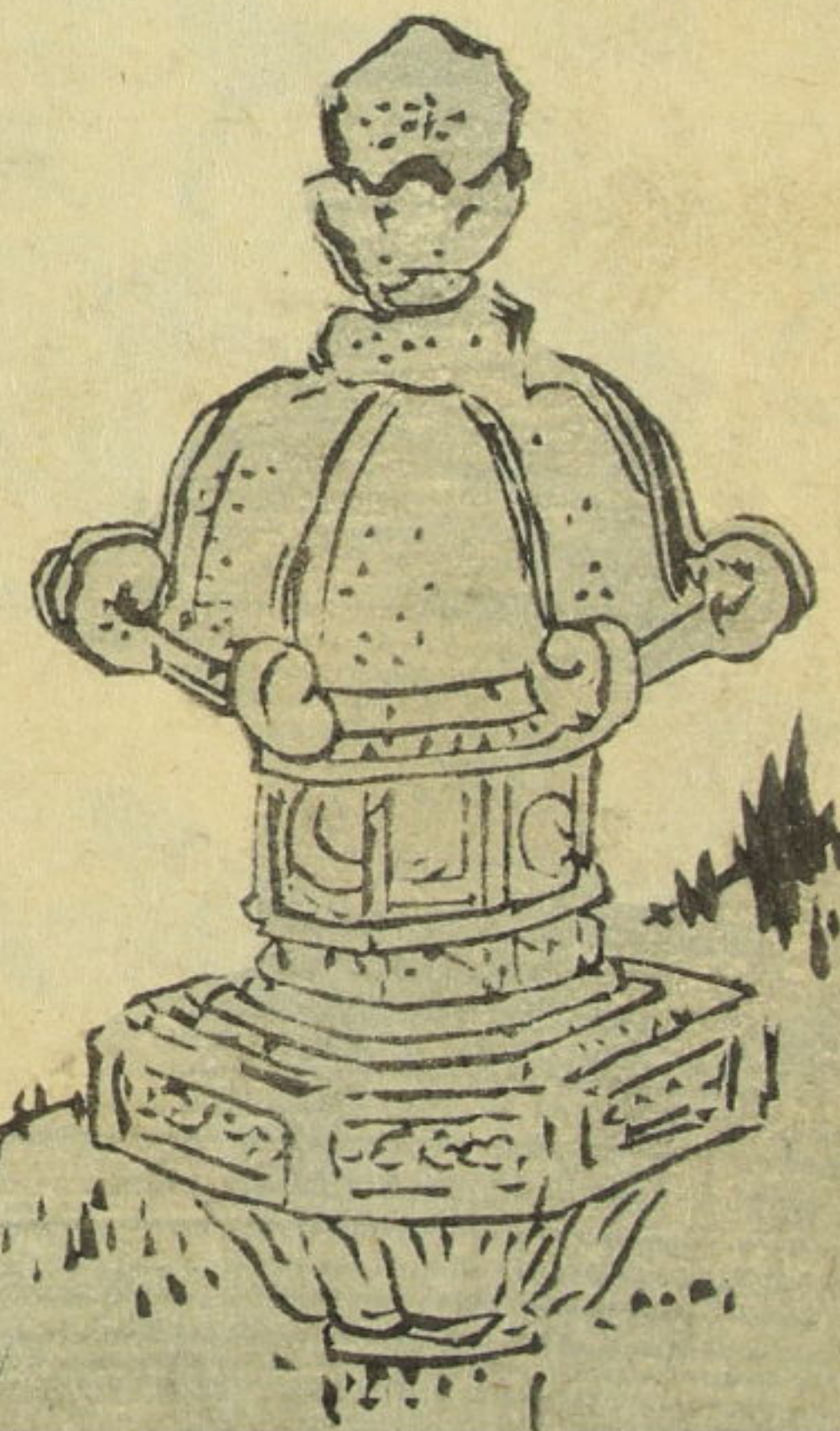
卷之二

國貞重

二編上卷

佐野

板





阿龍の方  
壁  
宗  
那須

阿毒婦  
右



平家の女官  
玉虫の美



隠里の宮女  
黒白の局  
後小柴六  
阿綾

西国



不破戸  
兼次郎  
三軒屋の  
莊官の  
子息



後小松  
右衛門  
凍田  
檢校

孝子龍太郎  
の  
后小松須家の  
忠臣木村  
龍太郎  
が  
春

三層のぼんちんりて小徳申  
のふ吉徳律のふりてうさ  
いちのふりややく目ぞのさけ  
ひるもさのふりてやうのやう  
あか候倉にさしあふさの町の  
せんさあかあをひるあんとあま  
ありてとあかあさあちあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ

あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ



あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ

あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ



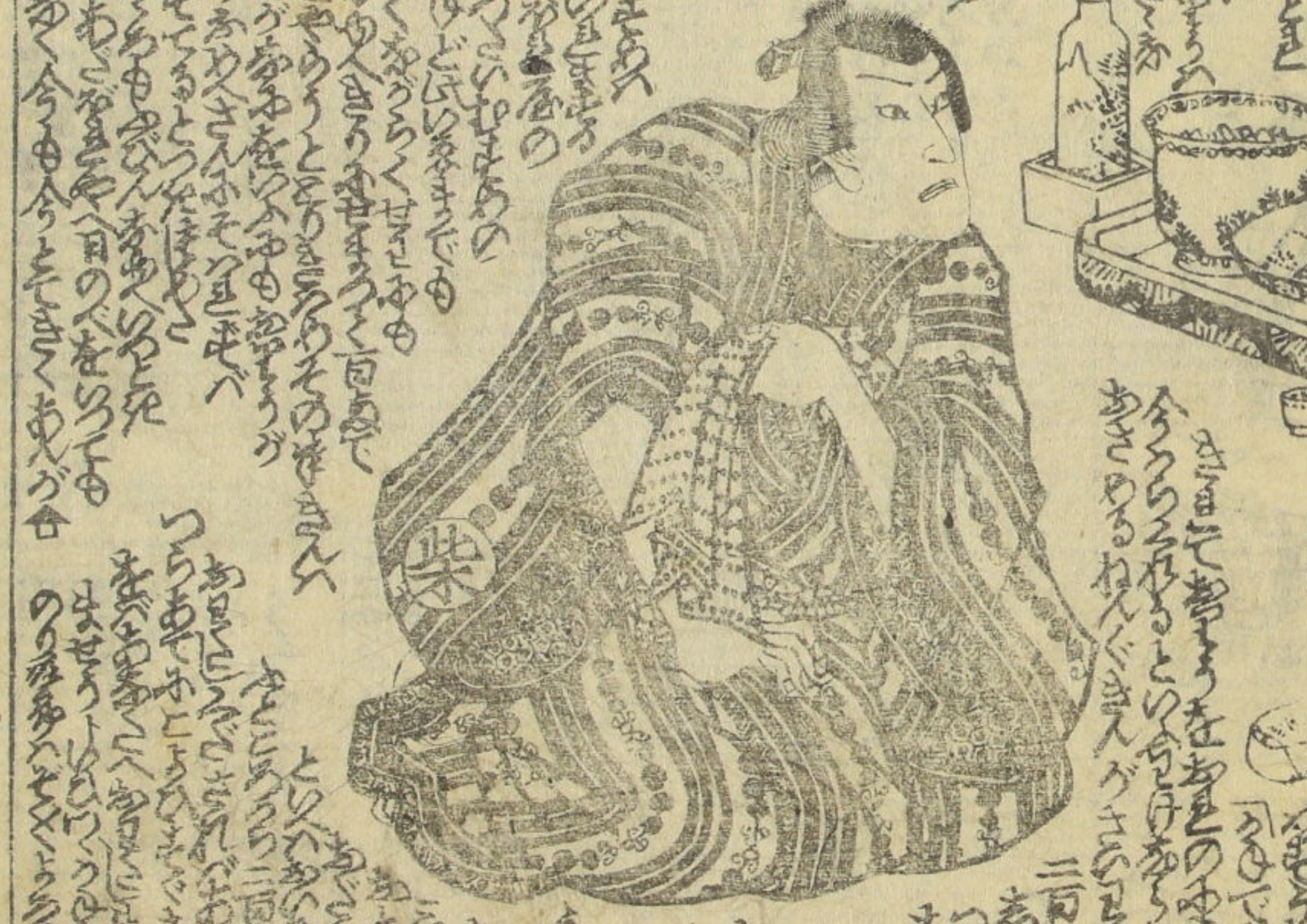
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ  
あちりてあかあといとあかあ







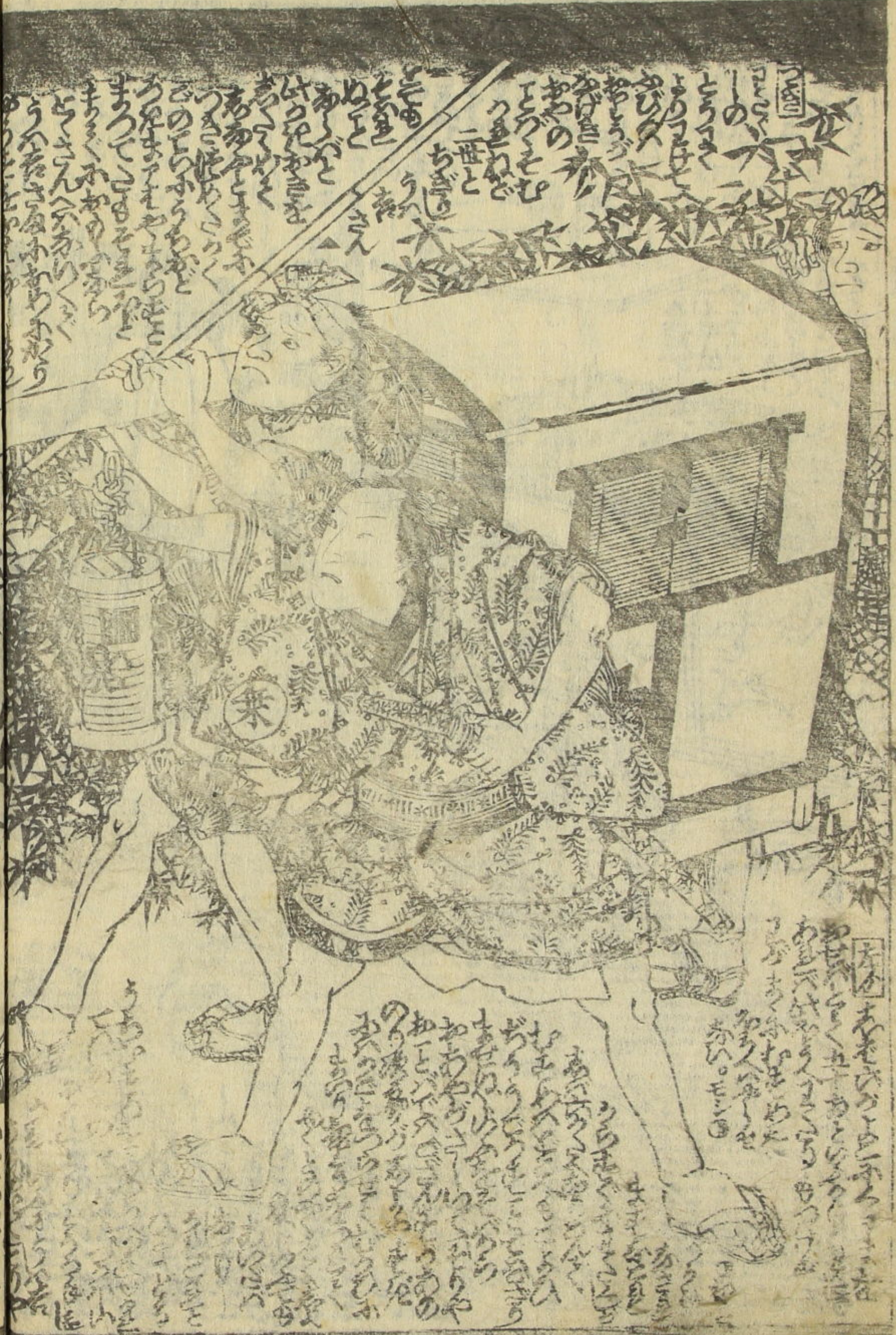
Handwritten text in vertical columns at the top of the page, likely serving as a preface or introductory text for the scene below.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the page, likely serving as a postscript or concluding text for the scene.







# 國貞画春水補綴



## 西國

### 奇談

#### 春水補綴

#### 國貞画

### 根源實紫新刻概畧

作者 柳亭種彦画工同前

十五編 統紫ある穴人の買(室留香炉偷く宜孝子托す野洲兎詛殺さる紫  
 式部寛と受十六編 式神壽祖狭手子等が隠謀を露や柳彦自截て  
 汚名入玉靈まを黑白判然兎悪皆戮せらるつぎ少將が貞節推規北国  
 予く死て又蘇る十七編 大貳三位生色宜孝病死花山法皇の御傳大々  
 此編を全備し式部源氏物語を作し上東門院小奉公十八編 以下選て記す

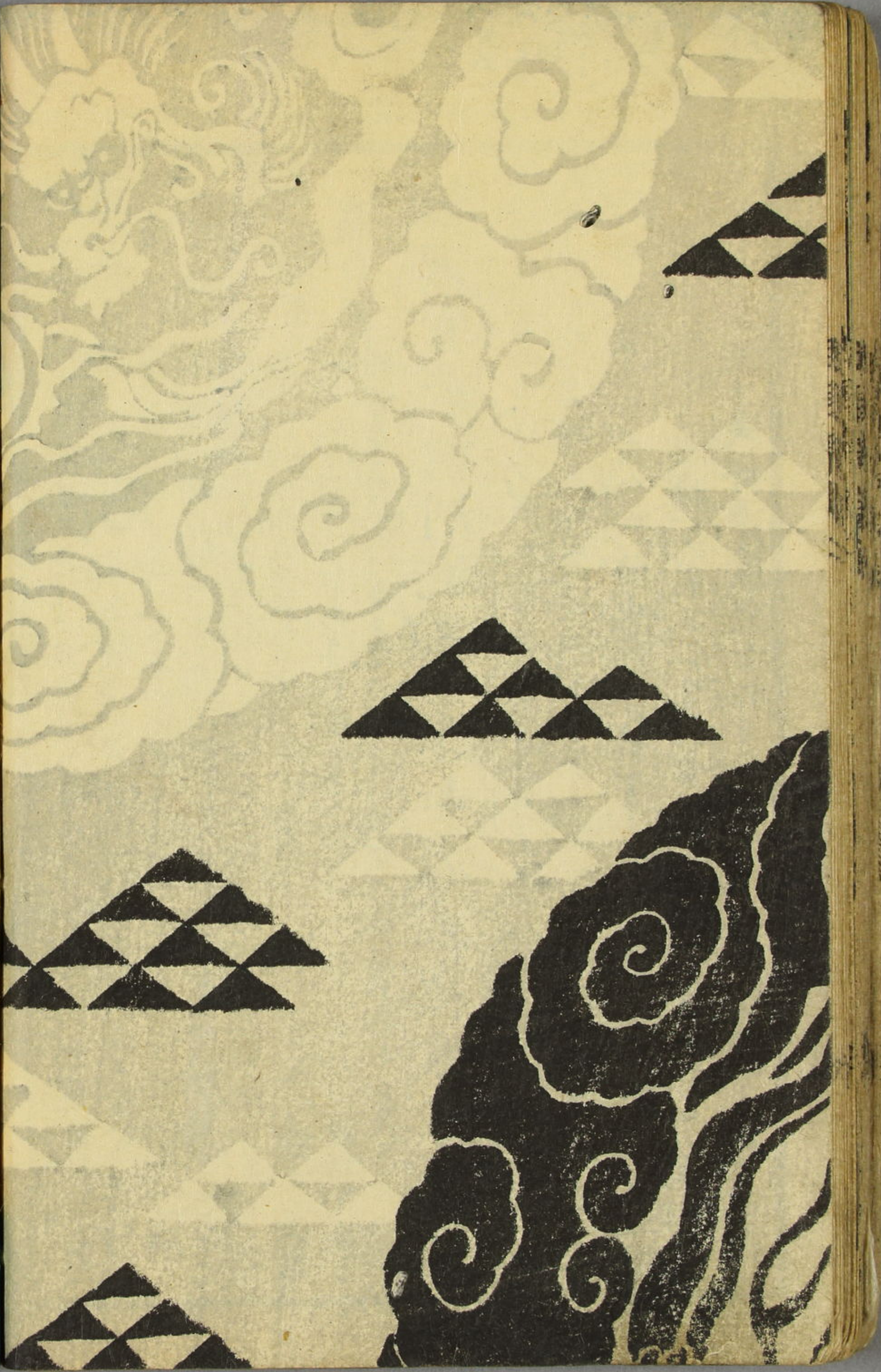
十三編 阿波五郎と玄通と暗夫小再會の一段 阿波教生石火  
 折りと身小妖術を獲るの奇談 龍太郎のこぼれと色に  
 緋を言寄て反て耻あらるるの渠を罪せんと討るの一段 十四編  
 偽龍太郎の故より真の龍太郎の二の町と不義せし言を  
 終つ配流せらるるの趣き並に節之助の忠義 龍太郎  
 大夫が龍太郎を苦あんとするより苦屋良子の二個の雀が龍太郎  
 伐りし一段 浪子次郎大夫が強奪ある物語を最巧とある  
 條にまで白地を美し記さる開へ出板の時めを知らしん



秀水補綴  
國貞画

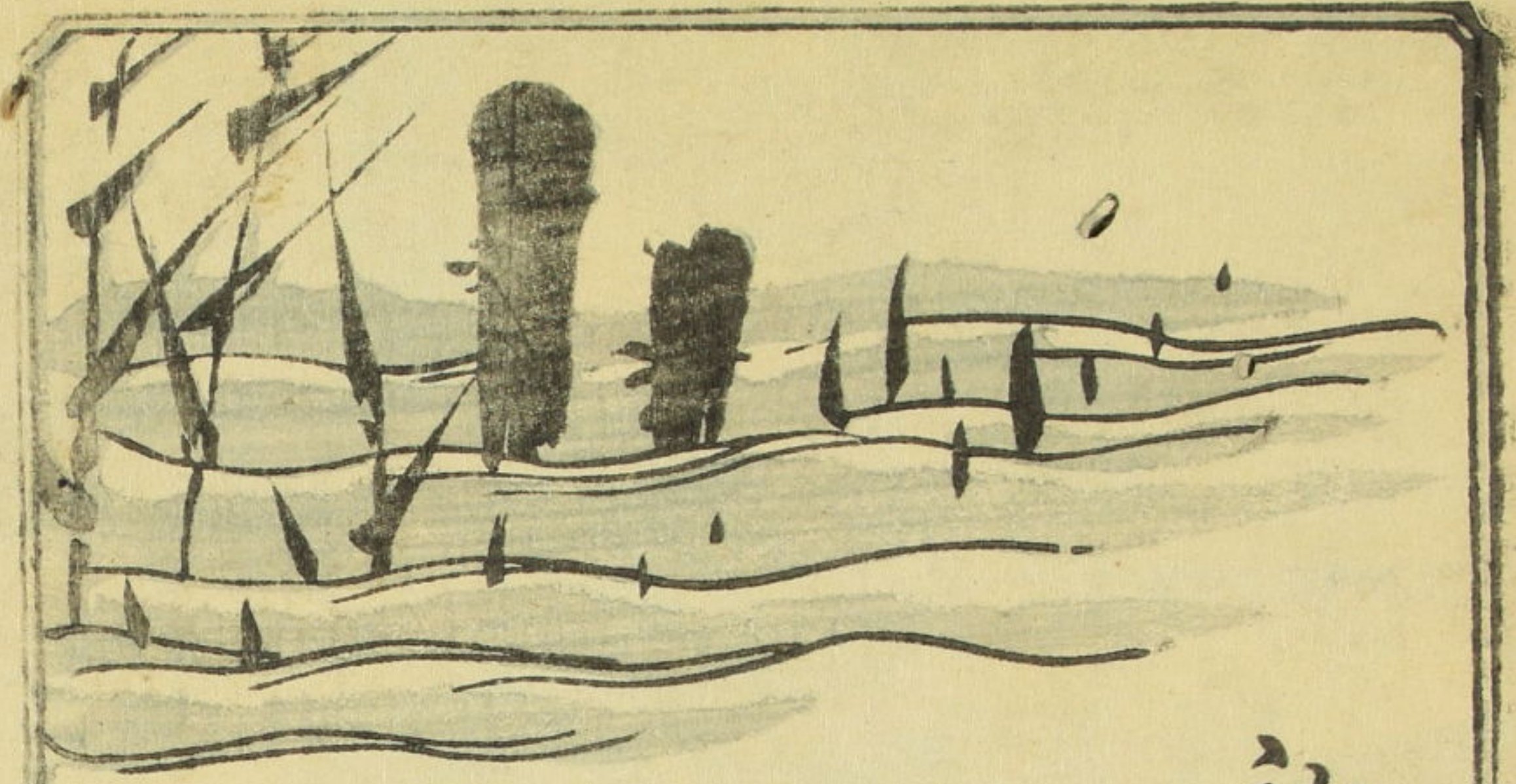
什題曲立因色

二編下





西川行状二



新垣補

西國

きんぎょ

二魚人

下流

春水  
よきん

喜鶴堂

國

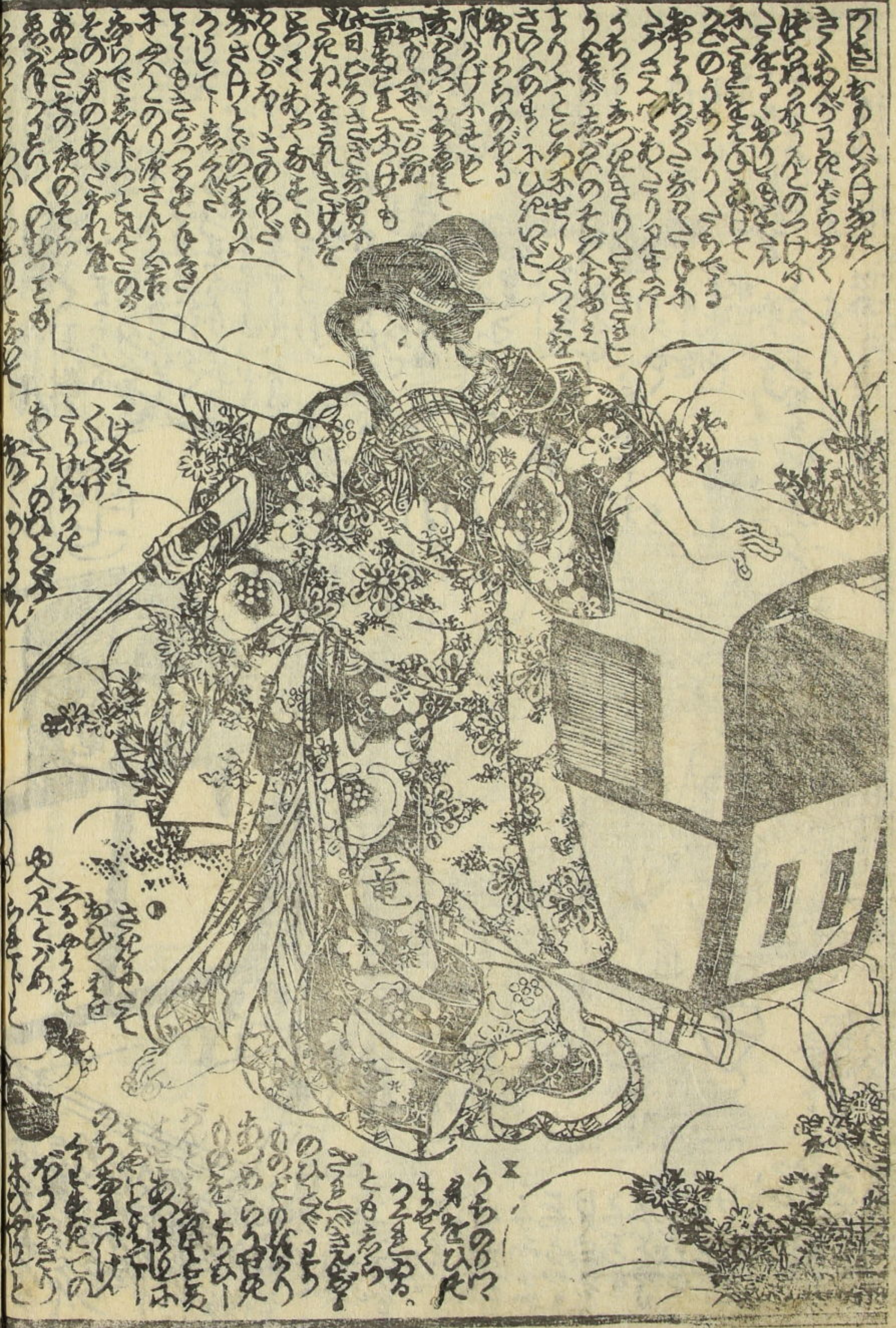
魚





月夜に月明かり

十一



月夜に月明かり

十二







西国奇談二

十五

此の物語は、  
 昔の事なれども、  
 今も人の心に  
 残るる事あり  
 故に之を記す  
 以て世に傳へ  
 ば、人の心を  
 醒ましめ、  
 善い事を行は  
 せむとす。

此の物語は、  
 昔の事なれども、  
 今も人の心に  
 残るる事あり  
 故に之を記す  
 以て世に傳へ  
 ば、人の心を  
 醒ましめ、  
 善い事を行は  
 せむとす。

西国奇談二



此の物語は、  
 昔の事なれども、  
 今も人の心に  
 残るる事あり  
 故に之を記す  
 以て世に傳へ  
 ば、人の心を  
 醒ましめ、  
 善い事を行は  
 せむとす。

此の物語は、  
 昔の事なれども、  
 今も人の心に  
 残るる事あり  
 故に之を記す  
 以て世に傳へ  
 ば、人の心を  
 醒ましめ、  
 善い事を行は  
 せむとす。

此の物語は、  
 昔の事なれども、  
 今も人の心に  
 残るる事あり  
 故に之を記す  
 以て世に傳へ  
 ば、人の心を  
 醒ましめ、  
 善い事を行は  
 せむとす。



此の物語は、  
 昔の事なれども、  
 今も人の心に  
 残るる事あり  
 故に之を記す  
 以て世に傳へ  
 ば、人の心を  
 醒ましめ、  
 善い事を行は  
 せむとす。

江戸十景の第一は、  
 東京の繁華を歩くこと。  
 花見の季節になると、  
 隅田川沿いの桜並木に  
 多くの人々が集まり、  
 春の訪れを楽しみます。  
 この光景は江戸の特色  
 の一つとして知られて  
 います。

江戸十景の二は、  
 芝居を見に行くこと。  
 芝居は江戸で最も人気  
 がある娯楽の一つです。  
 芝居小屋と呼ばれる芝  
 居場子には、毎日芝居  
 が上演されています。  
 芝居の面白さは、その  
 演技とストーリーにあります。

江戸十景の三は、  
 茶室で茶を楽しむこと。  
 茶室は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 茶室では、茶の淹め方  
 や淹め方によって味が  
 変わります。茶室では  
 静かに茶を楽しむこと  
 が求められます。

江戸十景の四は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。  
 川舟は江戸の歴史を  
 伝える重要な手段です。

江戸十景の五は、  
 神社に参ること。  
 神社は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 神社には、多くの神様  
 が祀られています。神  
 社には、参拝客が毎日  
 訪れます。

江戸十景の六は、  
 花街を歩くこと。  
 花街は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 花街には、多くの花魁  
 がいます。花街には、  
 参拝客が毎日訪れます。

江戸十景の七は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

江戸十景の八は、  
 茶室で茶を楽しむこと。  
 茶室は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 茶室では、茶の淹め方  
 や淹め方によって味が  
 変わります。茶室では  
 静かに茶を楽しむこと  
 が求められます。

江戸十景の九は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

江戸十景の十は、  
 花街を歩くこと。  
 花街は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 花街には、多くの花魁  
 がいます。花街には、  
 参拝客が毎日訪れます。

江戸十景の十一は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

江戸十景の十二は、  
 茶室で茶を楽しむこと。  
 茶室は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 茶室では、茶の淹め方  
 や淹め方によって味が  
 変わります。茶室では  
 静かに茶を楽しむこと  
 が求められます。

江戸十景の十三は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

江戸十景の十四は、  
 花街を歩くこと。  
 花街は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 花街には、多くの花魁  
 がいます。花街には、  
 参拝客が毎日訪れます。

江戸十景の十五は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

江戸十景の十六は、  
 花街を歩くこと。  
 花街は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 花街には、多くの花魁  
 がいます。花街には、  
 参拝客が毎日訪れます。

江戸十景の十七は、  
 茶室で茶を楽しむこと。  
 茶室は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 茶室では、茶の淹め方  
 や淹め方によって味が  
 変わります。茶室では  
 静かに茶を楽しむこと  
 が求められます。

江戸十景の十八は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

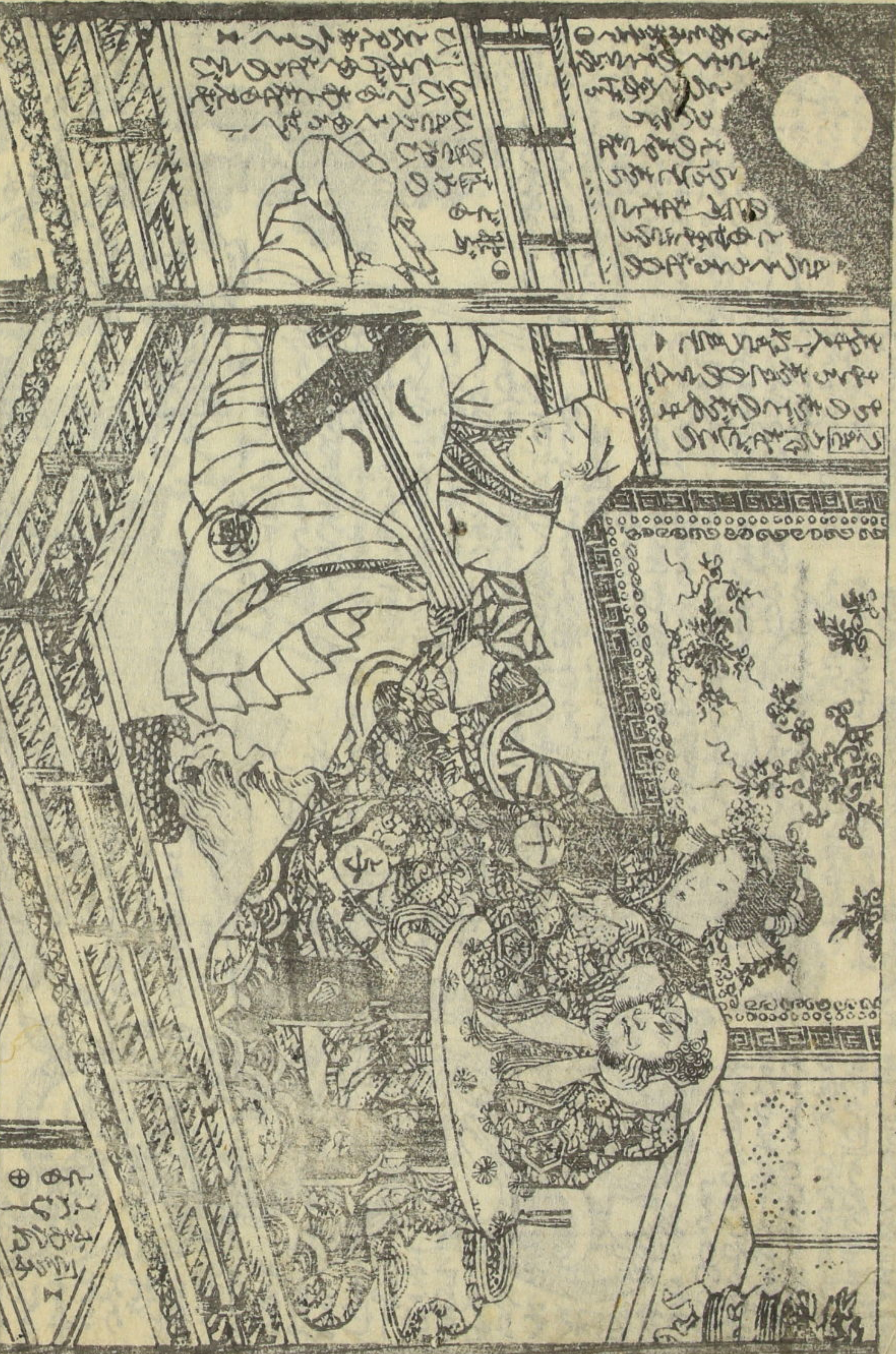
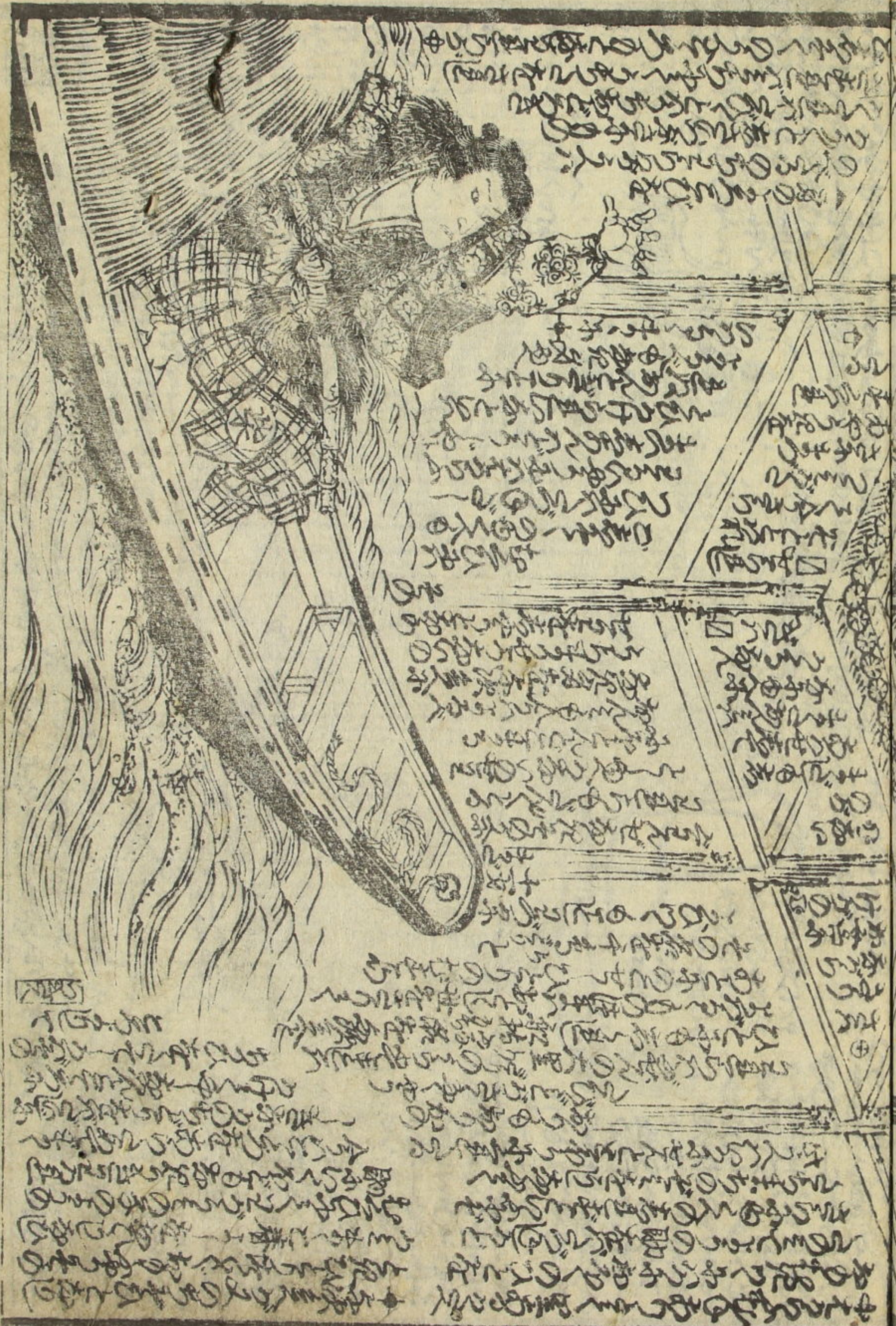
江戸十景の十九は、  
 花街を歩くこと。  
 花街は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 花街には、多くの花魁  
 がいます。花街には、  
 参拝客が毎日訪れます。

江戸十景の二十は、  
 川舟に乗ること。  
 川舟は江戸の風景を  
 楽しむのに最適な手段  
 です。川舟に乗ると、  
 隅田川の美しい風景を  
 目の当たりにできます。

江戸十景の二十一は、  
 花街を歩くこと。  
 花街は江戸の文化を支  
 えた重要な場所です。  
 花街には、多くの花魁  
 がいます。花街には、  
 参拝客が毎日訪れます。









此の物語は、  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、  
 二十一、  
 二十二、  
 二十三、  
 二十四、  
 二十五、  
 二十六、  
 二十七、  
 二十八、  
 二十九、  
 三十、  
 三十一、  
 三十二、  
 三十三、  
 三十四、  
 三十五、  
 三十六、  
 三十七、  
 三十八、  
 三十九、  
 四十、  
 四十一、  
 四十二、  
 四十三、  
 四十四、  
 四十五、  
 四十六、  
 四十七、  
 四十八、  
 四十九、  
 五十、  
 五十一、  
 五十二、  
 五十三、  
 五十四、  
 五十五、  
 五十六、  
 五十七、  
 五十八、  
 五十九、  
 六十、  
 六十一、  
 六十二、  
 六十三、  
 六十四、  
 六十五、  
 六十六、  
 六十七、  
 六十八、  
 六十九、  
 七十、  
 七十一、  
 七十二、  
 七十三、  
 七十四、  
 七十五、  
 七十六、  
 七十七、  
 七十八、  
 七十九、  
 八十、  
 八十一、  
 八十二、  
 八十三、  
 八十四、  
 八十五、  
 八十六、  
 八十七、  
 八十八、  
 八十九、  
 九十、  
 九十一、  
 九十二、  
 九十三、  
 九十四、  
 九十五、  
 九十六、  
 九十七、  
 九十八、  
 九十九、  
 一百、



此の物語は、  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、  
 二十一、  
 二十二、  
 二十三、  
 二十四、  
 二十五、  
 二十六、  
 二十七、  
 二十八、  
 二十九、  
 三十、  
 三十一、  
 三十二、  
 三十三、  
 三十四、  
 三十五、  
 三十六、  
 三十七、  
 三十八、  
 三十九、  
 四十、  
 四十一、  
 四十二、  
 四十三、  
 四十四、  
 四十五、  
 四十六、  
 四十七、  
 四十八、  
 四十九、  
 五十、  
 五十一、  
 五十二、  
 五十三、  
 五十四、  
 五十五、  
 五十六、  
 五十七、  
 五十八、  
 五十九、  
 六十、  
 六十一、  
 六十二、  
 六十三、  
 六十四、  
 六十五、  
 六十六、  
 六十七、  
 六十八、  
 六十九、  
 七十、  
 七十一、  
 七十二、  
 七十三、  
 七十四、  
 七十五、  
 七十六、  
 七十七、  
 七十八、  
 七十九、  
 八十、  
 八十一、  
 八十二、  
 八十三、  
 八十四、  
 八十五、  
 八十六、  
 八十七、  
 八十八、  
 八十九、  
 九十、  
 九十一、  
 九十二、  
 九十三、  
 九十四、  
 九十五、  
 九十六、  
 九十七、  
 九十八、  
 九十九、  
 一百、



文久二年戊戌新年鑄目録

根源實紫  
十五編 柳亭種彦作  
十六編 一壽齋國貞画

娘庭訓金鷄  
五編 同  
大尾同 画作

總次郎琴聲美人錄  
十七編 柳亭種彦作  
十八編 柳亭種彦作  
十九編 柳亭種彦作

花兄弟陸奥名所  
初編 柳亭種彦作  
二編 柳亭種彦作

新增補西國奇談  
十三編 鳥永春水作  
十四編 鳥永春水作  
十五編 鳥永春水作

地本繪草紙團扇問屋  
三芝神明前  
三鴛町  
井佐野屋喜兵衛板

鳥永春水補綴梅蝶樓國貞画

鳥永春水補綴梅蝶樓國貞画



新錦補

香正補鉄

四真面



二編全三冊

沈節書